

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

令和7年9月備前市教育委員会学校教育課

目的:◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

実施日:令和7年4月17日(木)

実施校:市内小学校10校 第6学年児童198人

市内中学校 5校 第3学年生徒198人

調査:◇教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

Ⅰ 学力調査結果の分析

<小学校>

【国語】

全体的には全国・県の正答率をやや下回っている。

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題や、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では、正答率が県・全国をやや上回った。児童質問「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」の項目で肯定的に回答している児童の割合が県・全国よりも高く、国語の授業にとどまらず、インタビューをして考えを聞いたり、集めた情報をより効果的に伝える方法を考えたりする活動に実践的に取り組んでいる成果だと考えられる。

一方で、複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめる問題では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えたり、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることに課題が見られた。情報の集め方や読み取り方、切り取り方など、発達段階に応じて実践的に学習するなど、一層の工夫が必要だと感じる。

【算数】

全体的には全国・県の正答率をやや下回っている。

数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題では、全国・県を下回る傾向が見られ、また、無回答率も高かった。分数の学習は小学校第2学年から始まる。具体的な物を操作するなど体験を伴う学習を通して、基本的な概念理解が図れるよう指導の工夫が必要である。また、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できるような仕掛けも必要である。

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題においても、全国・県を下回る傾向が見られた。グラフを選択することはできているが適切な理由を書けていない児童、グラフを適切に選択できていない児童、無回答の児童等、課題は様々である。個々

の状況を的確に把握し、個々の課題解決に向けた指導の充実が一層必要である。

また、基礎的な知識・技能をみる問題において課題が見られた。生きて働く知識・技能の習得、基本的な概念理解の定着が図れるように、個別学習、繰り返し学習、習熟度別学習、補充的な学習など個に応じた指導の充実が必要である。

【理科】

全体的には全国・県の正答率を下回っている。

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が県・全国をやや上回った。また、水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題や、水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題においても、正答率が県・全国をやや上回っている。児童質問から、理科の授業では、「観察や実験をよく行った」、「問題に対して答えがどのようなものか自分で予想(仮説)を考えた」等の項目において肯定的な回答をしている児童が多く、実践を伴った学びが概念的理解につながっていると考えられる。

一方で、水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題や、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題では、全国・県を下回る傾向が見られ、また、無回答率も高かった。観察や実験の進め方や考え方をふりかえって考察するなどの指導の工夫が必要である。

<中学校>

【国語】

全体的には全国・県の正答率をやや下回っているものの、ほぼ同等の正答率である。

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題や、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、正答率が県・全国を上回っていた。

一方、文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題では、全国・県を大きく下回っていた。「どれもかいしんの出来です。」の「かいしん」について、文脈から意味を捉えることができなかったか、意味を捉えることはできたものの、「会心」、「改心」、「改新」のいずれを使うのか、正しく判断して選ぶことができなかったものと考えられる。読書を好む生徒は比較的多いものの、新聞をほとんど、または、全く読まない生徒も多い。学習した漢字を正しく活用することができるように、日常生活において漢字に触れる機会を設けたり、個に応じた学びを保障できるようAIドリルを活用したりするなどの一層の工夫が必要だと考えられる。

【数学】

全体的には全国・県の正答率を大きく下回り、無回答率も高かった。

文字を用いて数量の関係などを考察する場面において、事象に即して解釈した数量を、文字を用いた式で表すことができるかをみる問題で、正答率が県・全国を大きく下回り、無回答率も高かった。割合が40%であることから40をそのまま用いたと考えられる生徒、文字(a)を用いた式で表してはいるが、数量を正し

く捉えることができなかった生徒が非常に多かった。また、素数を選ぶ問題や三角形の外角を求める問題など、基本的な概念理解を問われる問題においても、正答率が低い傾向が見られた。

このようなことから、小学校と同様に、個別学習、繰り返し学習、習熟度別学習、補充的な学習など個に応じた指導の充実及び、数学的活動を通して、意味理解を図る授業の一層の工夫が必要であると考えます。

【理科】

今年度の理科の調査は、一人一台端末を活用したCBT方式で実施され、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論(IRT)に基づいている。問題は、公開問題と非公開問題を組み合わせて構成されている。公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題があり、同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解くことになっている。非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解いている。生徒一人が解く問題数は26問。このうち、公開問題は10問、非公開問題は16問である。

結果については、IRTに基づいてIRTバンド、IRTスコアで示されている。

※IRTスコア:IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

※IRTバンド:IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。3を基準のバンドし、5が最も高いバンドとなる。

下の1～9は調査問題の各問題番号に相当

	公開問題（合計22問）		非公開問題	
	全日程に共通する問題（6問）	実施日により異なる問題（16問）		生徒一人が解く問題数
4/14(月) 1日目	1 (1)～(6) 6問	2 (1) (2) 9 (1) (2) 4問	16問	= 26問
4/15(火) 2日目	1 (1)～(6) 6問	5 (1) (2) 8 (1) (2) 4問	16問	= 26問
4/16(水) 3日目	1 (1)～(6) 6問	3 (1) (2) 6 (1) (2) 4問	16問	= 26問
4/17(木) 4日目	1 (1)～(6) 6問	4 (1) (2) 7 (1) (2) 4問	16問	= 26問

※ 問題の順序は上記のとおりではない。

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

※イメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環（C）を見ることができたか	どの大きさのランドルト環（C）を安定的に見ることができたか
得点(スコア)の例		

素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなります。

IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

全日程共通する6問の平均正答率は2.4で、全校・県の2.9を下回っていた。

また、平均IRTスコアにおいても、全校・県の平均スコアを下回っていた。

全日程に共通する問題のうち、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題や、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題などの記述する問題において、無回答率が高い傾向が見られた。PC・タブレットなどのICT機器の使用率は全国・県よりも高く、ICT機器を活用して文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりすることができる肯定的に回答している生徒も多いため、無回答率の高さは、CBT調査によるものが原因とは

考えにくい。

理科の授業において、自分の予想(仮説)もとに観察や実験の計画を立てたり、課題について観察や実験をして調べていく中で、学びが深まったか、新たに調べたいことが見つかったか、ふりかえったことを表現して伝え合ったりするなど、一層の授業の工夫が必要である。

2 学校及び市教育委員会の取組

【学校】

○授業改善及び計画訪問の実施による校内研修体制のより一層の充実

- ・中堅教諭の指導力を発揮した校内研修体制の構築
- ・中堅教諭と指導主事が協力した若手教員の授業力向上を中心とした学校の組織力向上
- ・学力向上の取組と校内研究・研修を連動させた学習内容定着を図るためのPDCAサイクルの構築及び検証

○端末、電子黒板を有効活用した授業実践の充実

- ① 教科の本質へ向かう授業実践に対する市内教員の共通理解
- ② ①を受けた指導主事による各校に対する継続的な支援・助言
- ③ 基礎・基本の定着も含めたAIドリルを活用した個別最適な学びの推進

○中学校区単位での学力向上に向けた小中一貫した課題解決の推進

- ・中学校区単位での学力的課題に対する共通理解と組織的対応

○朝、昼、放課後等を有効に活用した補充学習の推進

○家庭と連携し、授業と連動した家庭学習の内容充実と習慣化を推進

【教育委員会】

○体制整備・ICT(電子黒板・デジタル教科書等)環境の整備

- ・GIGA端末活用環境の整備
- ・個別最適な学び及び基礎・基本の定着に向けたAIドリルの活用推進
- ・きめ細やかな指導を可能にする市費非常勤講師や教育支援員の配置

○指導訪問等による学校の課題解決に向けた指導助言

○校内研究、学力向上担当の資質向上に向けた研修の充実

○地域の教育力を生かし、公民館等で土曜日や長期休業中に補充学習を行う「備前まなび塾+」の実施

- ・地域の教育力を生かし、授業支援や補充学習、環境整備、通学の見守り支援等を行う地域学校共同本部の活用

○授業改革推進員、指導教諭と連携した授業改善の取組の推進

○管理職の学校経営ビジョンの推進に係る支援

○他課との連携による地域学習の充実

3 学力調査(教科に関する調査)

(1) 平均正答率

小学校	国語	算数	理科
備前市	63	53	51
岡山県	67	56	57
全 国	66.8	58.0	57.1
県比較	▲ 4	▲ 3	▲ 6
国比較	▲ 3.8	▲ 5.0	▲ 6.1

中学校	国語	数学	理科 IRT スコア
備前市	52	39	466
岡山県	55	48	504
全 国	54.3	48.3	503
県比較	▲ 3	▲ 9	▲ 38
国比較	▲ 2.3	▲ 9.3	▲ 37

※理科共通問題の平均正答率:備前市:2.4 県比較:▲0.5 国比較:▲0.5

<教科ごとの総問題数と正答率の関係>

【小学校】

国語…全14問(正答数1問の差=正答率約7.1ポイントの差)

算数…全16問(正答数1問の差=正答率約6.3ポイントの差)

理科…全17問(正答数1問の差=正答率約5.9ポイントの差)

【中学校】

国語…全14問(正答数1問の差=正答率約7.1ポイントの差)

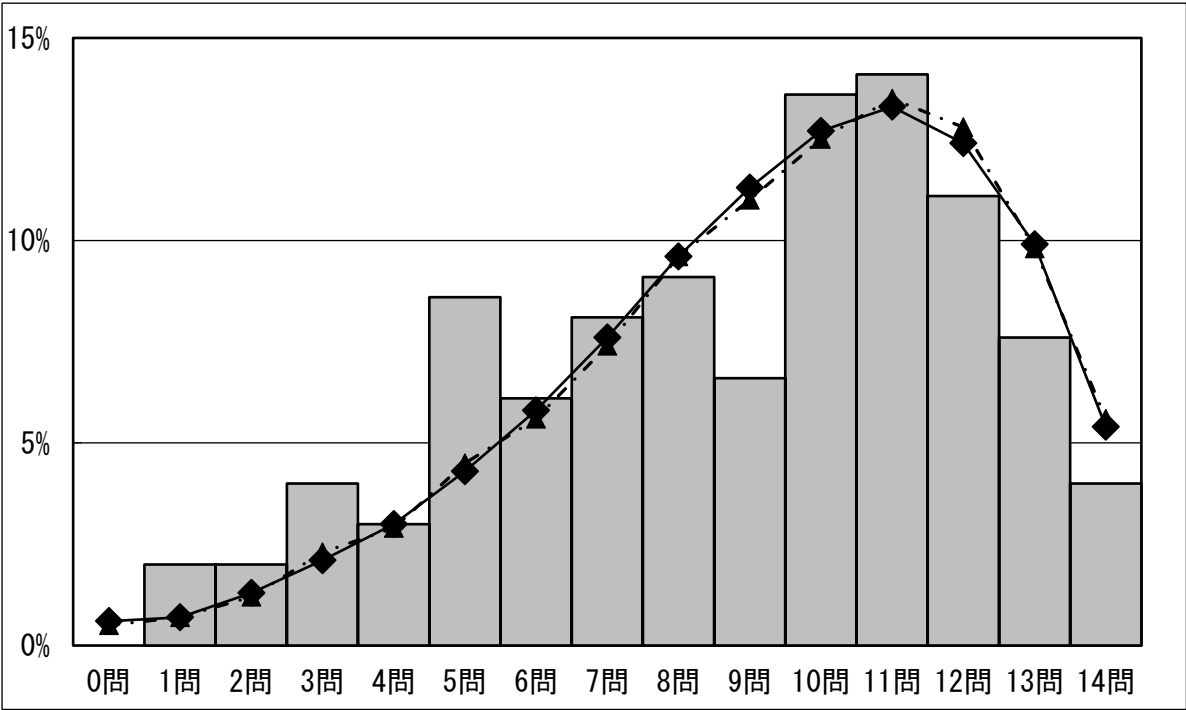
算数…全15問(正答数1問の差=正答率約6.7ポイントの差)

(2) 正答数分布〔小中教科別〕 縦軸：割合(%) 横軸：正答数(問)

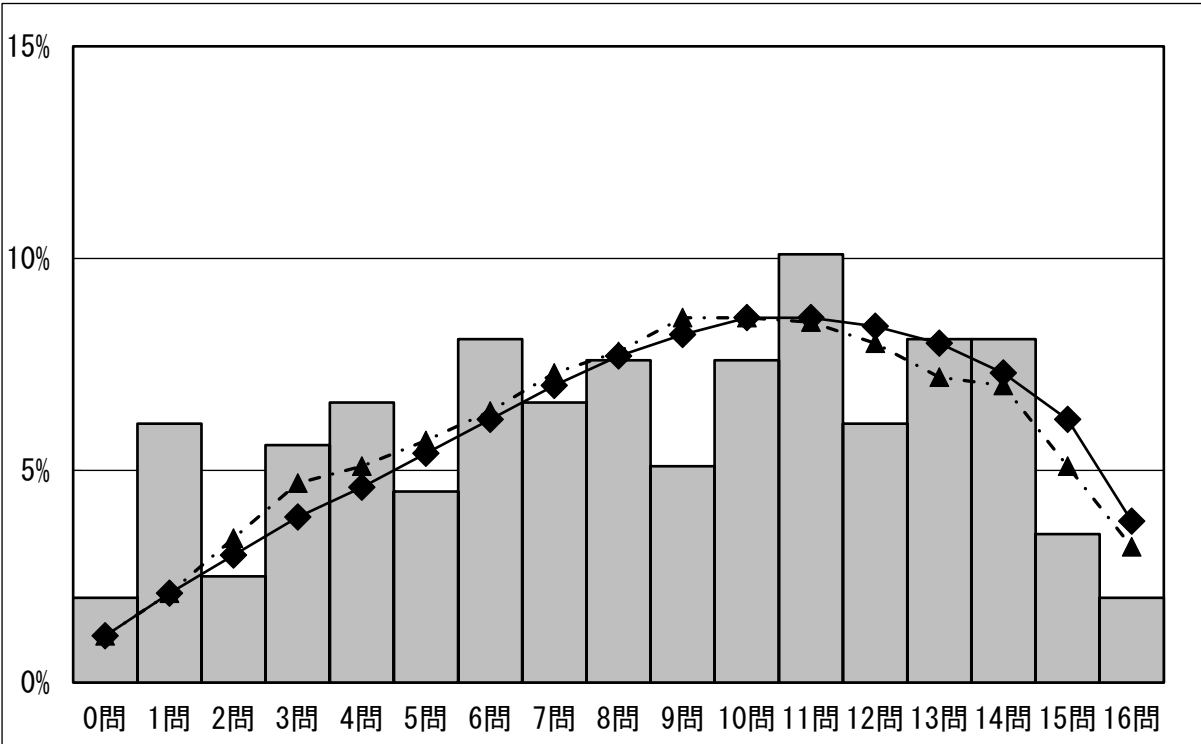
市  県  全国 

【小学校】

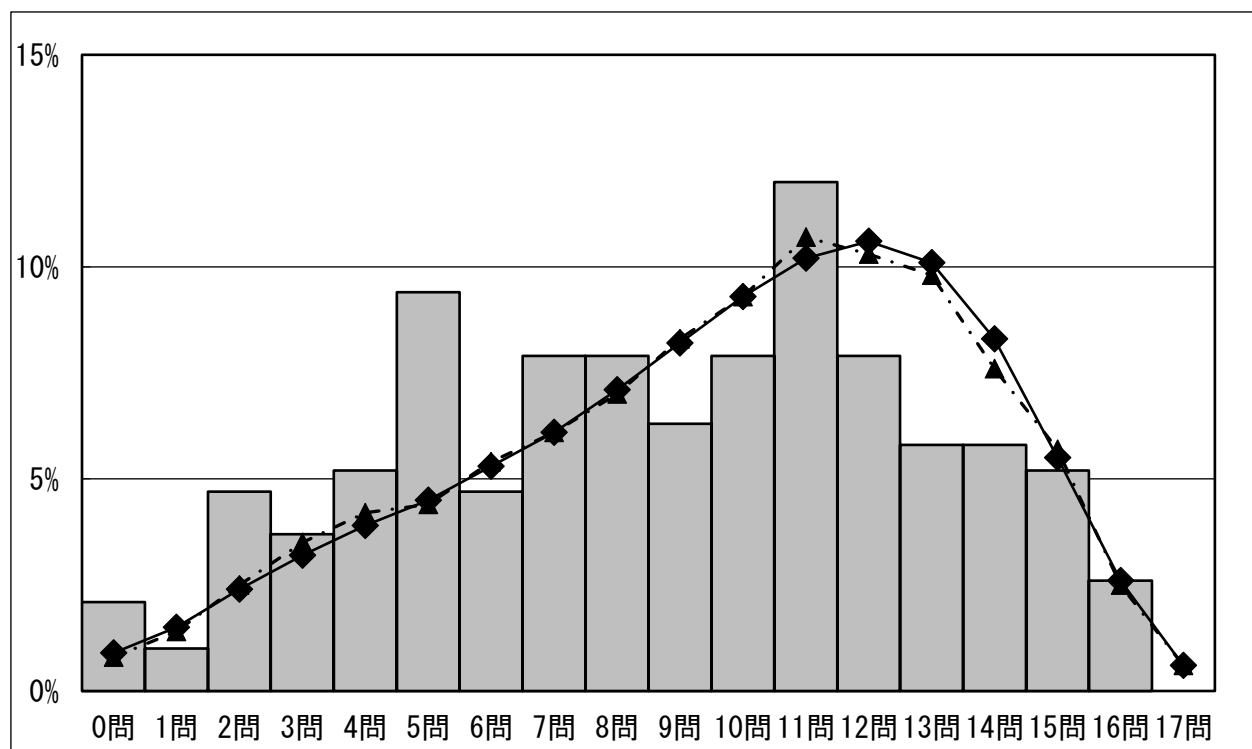
国語



算数

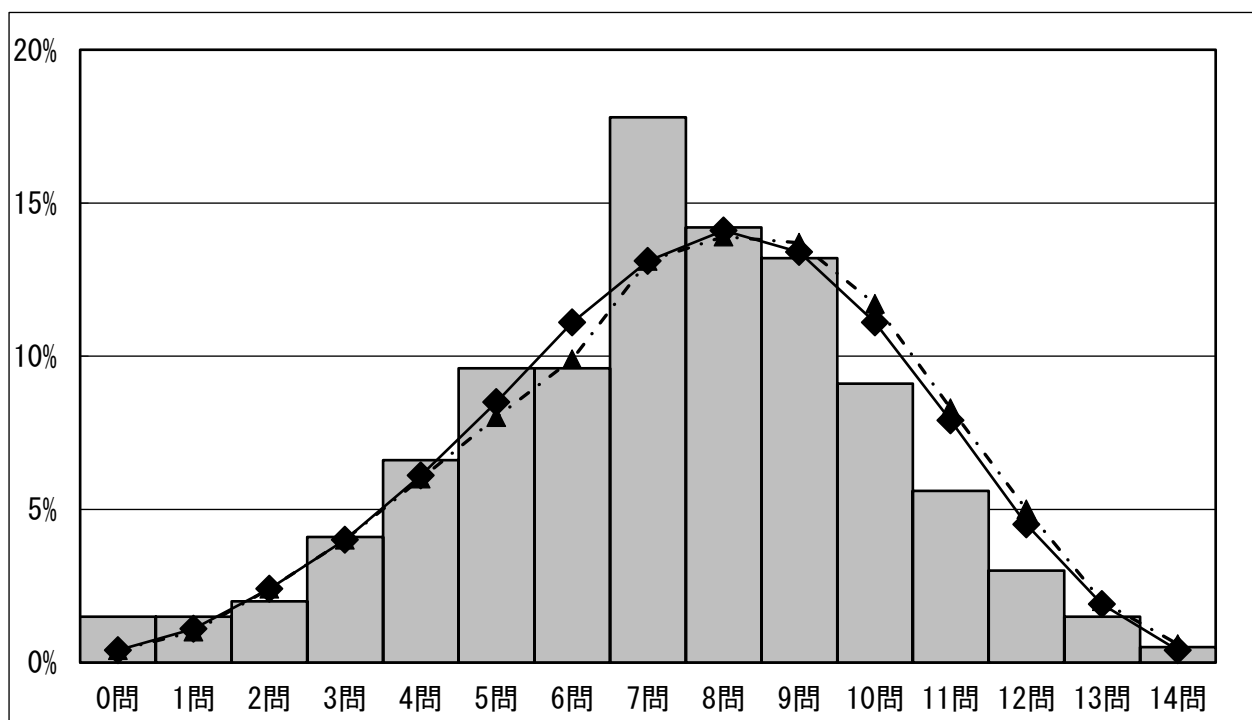


理科

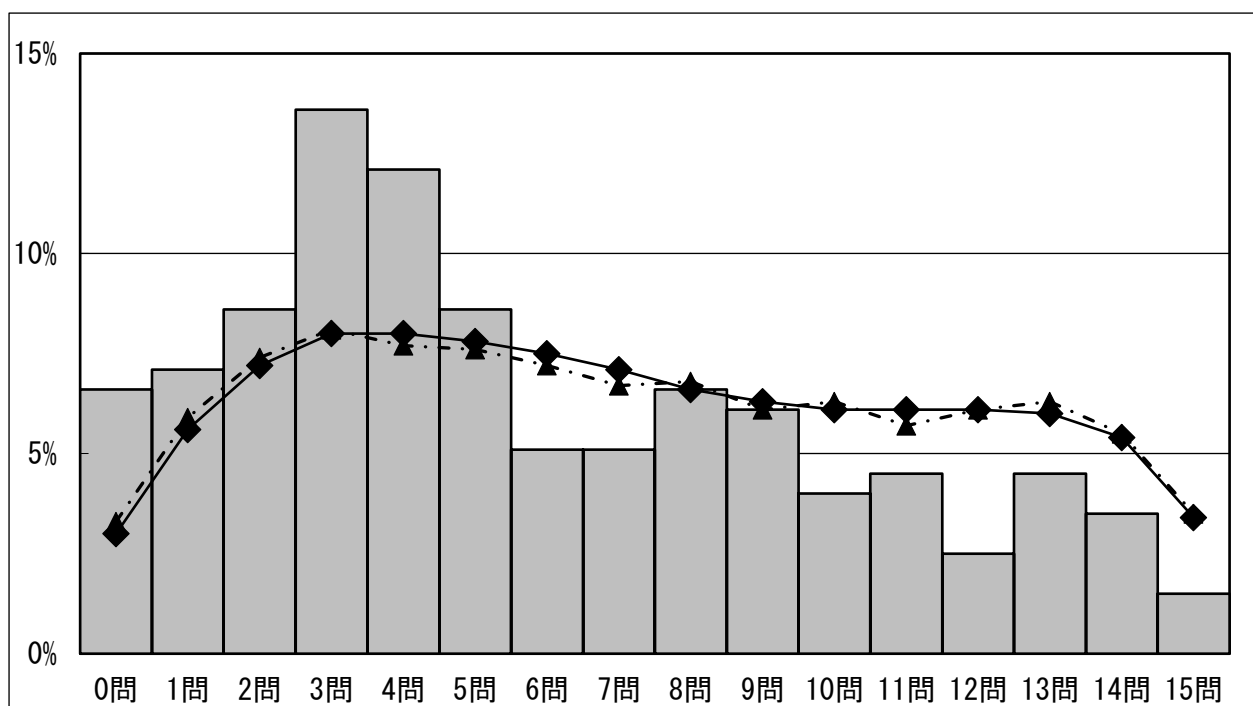


【中学校】

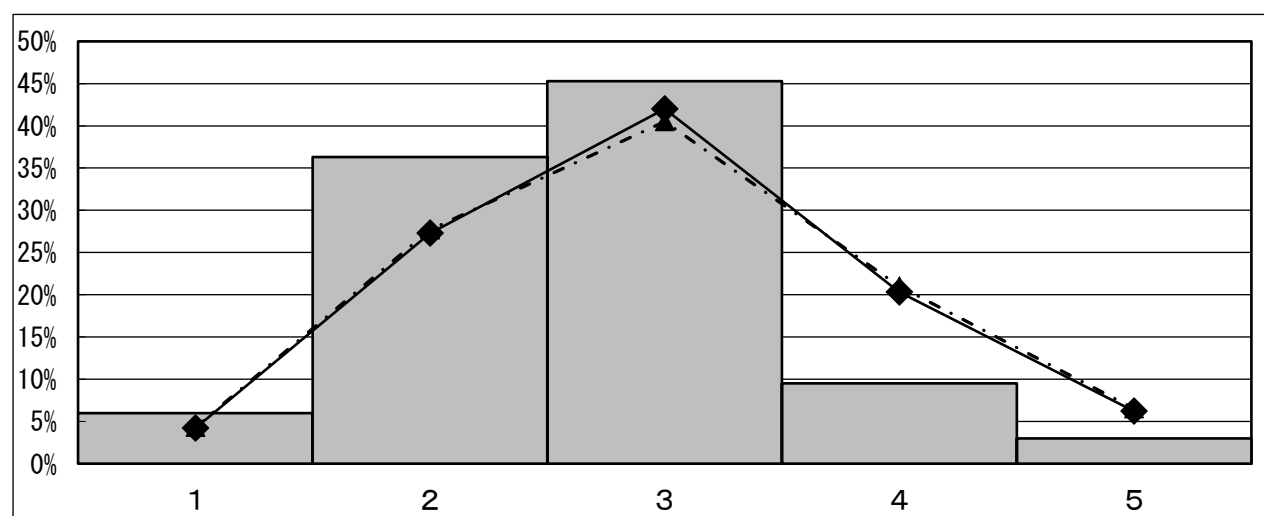
国語



数学



理科



【IRT バンド(1~5)について】

- ・IRT スコアを1~5の5段階に区切ったもの。3を基準とし、5 が最も高いバンドとなる。
- ・問題の難易度は5段階で表示され、非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したものである。

※IRT バンドを IRT スコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になる見通しです。

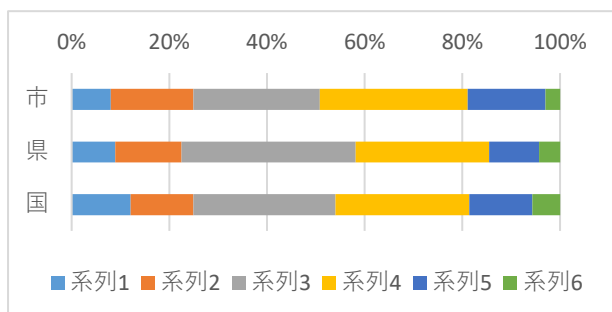
IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	~350	350~450	450~550	550~650	650~

4 質問調査(主な項目のみ)

A 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾や家庭教師、インターネットを活用した学びを含む。)

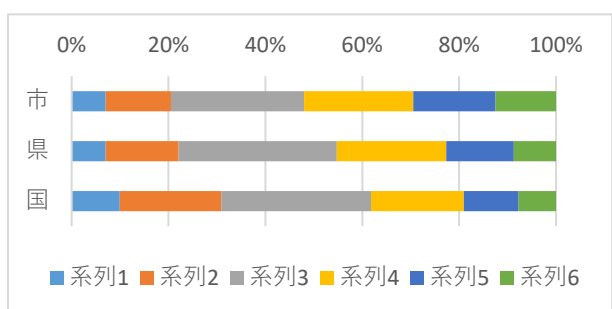
1.3時間以上 2.2時間以上3時間より少ない 3.1時間以上,2時間より少ない 4.30分以上1時間より少ない 5.30分より少ない 6.全くしない

【小学生】



系列	1	2	3	4	5	6
市	8.0	16.9	25.9	30.3	15.9	3.0
県	8.9	13.6	35.6	27.3	10.2	4.3
国	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7
県比較	▲ 0.9	3.3	▲ 9.7	3.0	5.7	▲ 1.3
国比較	▲ 4.1	4.1	▲ 3.2	2.9	3.0	▲ 2.7

【中学生】



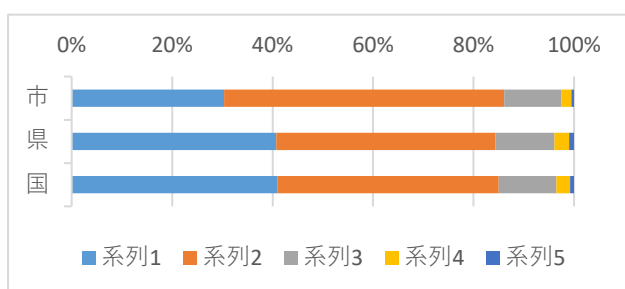
系列	1	2	3	4	5	6
市	6.9	13.3	27.1	22.2	16.7	12.3
県	7.0	15.0	32.5	22.5	13.9	8.7
国	9.9	20.9	30.8	19.1	11.3	7.7
県比較	▲ 0.1	▲ 1.7	▲ 5.4	▲ 0.3	2.8	3.6
国比較	▲ 3.0	▲ 7.6	▲ 3.7	3.1	5.4	4.6

A 1時間以上家庭で勉強する割合(1+2+3)は、小学生では全国より3.2、中学生では14.3ポイント下回っている。

B 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか(無回答除く)

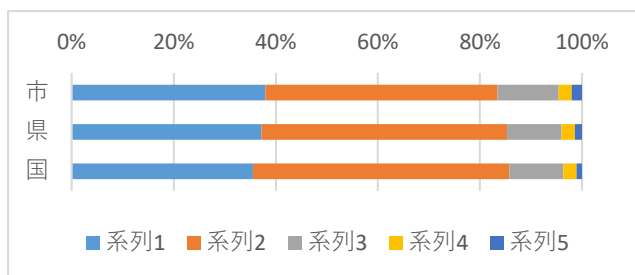
1当てはまる 2どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4当てはまらない 5学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない。

【小学生】



系列	1	2	3	4	5
市	30.3	55.7	11.4	2.0	0.5
県	40.7	43.6	11.7	2.9	1.0
国	40.9	44.0	11.5	2.7	0.8
県比較	▲ 10.4	12.1	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 0.5
国比較	▲ 10.6	11.7	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.3

【中学生】



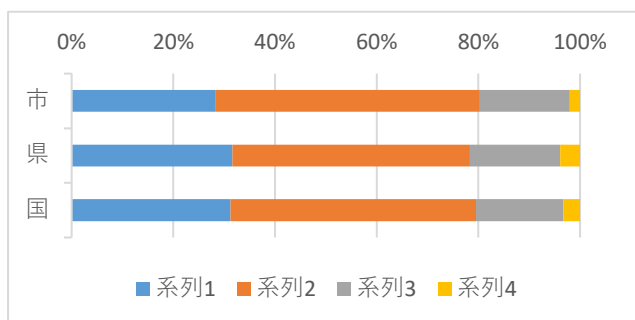
系列	1	2	3	4	5
市	37.4	44.8	11.8	2.5	2.0
県	36.8	47.6	10.5	2.6	1.4
国	35.1	49.6	10.5	2.5	1.1
県比較	0.6	▲ 2.8	1.3	▲ 0.1	0.6
国比較	2.3	▲ 4.8	1.3	0.0	0.9

B 肯定群（「できている」「どちらかといえばできている」の計）の割合は、小学生で1.1ポイント上回っているが、中学生で2.5ポイント全国を下回っている。

C 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

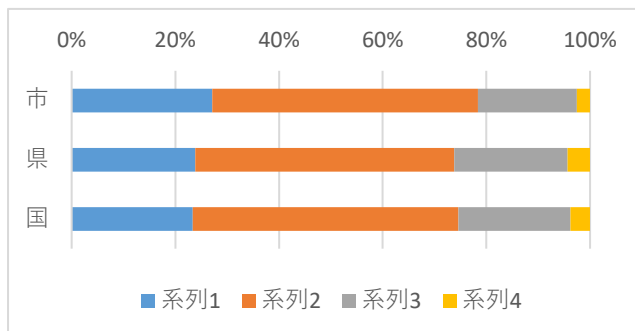
1 できている 2 どちらかといえばできている 3 あまりできていない 4 全くできていない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	27.9	51.2	17.4	2.0
県	31.5	46.6	17.7	3.9
国	31.2	48.2	17.1	3.3
県比較	▲ 3.6	4.6	▲ 0.3	▲ 1.9
国比較	▲ 3.3	3.0	0.3	▲ 1.3

【中学生】



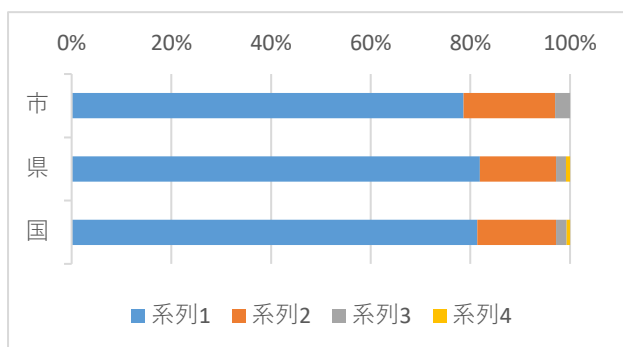
系列	1	2	3	4
市	26.6	50.2	18.7	2.5
県	23.5	49.2	21.5	4.3
国	23.0	50.4	21.3	3.7
県比較	3.1	1.0	▲ 2.8	▲ 1.8
国比較	3.6	▲ 0.2	▲ 2.6	▲ 1.2

C 肯定群（「できている」「どちらかといえば、できている」の計）の割合は、小学生は全国と同等、中学生は、3.4ポイント上回っている。

D いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

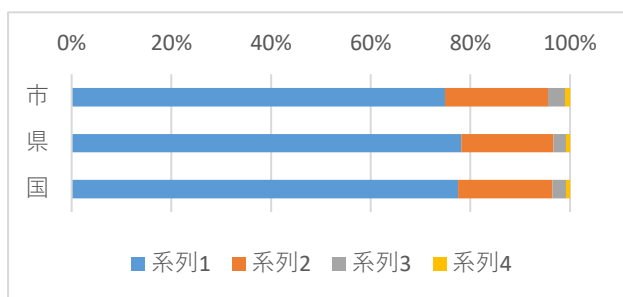
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全くそう思わない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	78.6	18.4	3.0	0.0
県	81.8	15.3	2.0	0.8
国	81.4	15.8	2.1	0.7
県比較	▲ 3.2	3.1	1.0	▲ 0.8
国比較	▲ 2.8	2.6	0.9	▲ 0.7

【中学生】



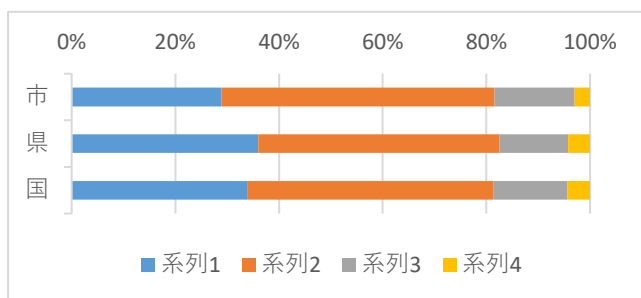
系列	1	2	3	4
市	74.9	20.7	3.4	1.0
県	77.8	18.4	2.5	0.8
国	77.1	18.8	2.7	0.8
県比較	▲ 2.9	2.3	0.9	0.2
国比較	▲ 2.2	1.9	0.7	0.2

D 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生・中学生ともにほぼ同等である。

E 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

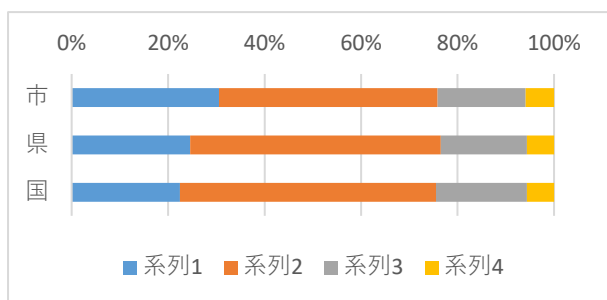
1 ある 2 どちらかといえば、ある 3 あまりない 4 全くない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	28.9	52.7	15.4	3.0
県	36.0	46.4	13.3	4.2
国	33.8	47.5	14.2	4.4
県比較	▲ 7.1	6.3	2.1	▲ 1.2
国比較	▲ 4.9	5.2	1.2	▲ 1.4

【中学生】



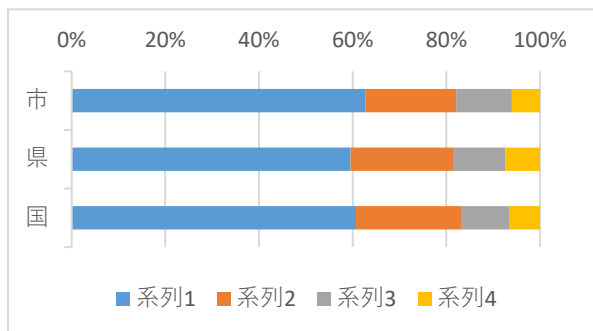
系列	1	2	3	4
市	30.5	45.3	18.2	5.9
県	24.5	51.9	17.8	5.6
国	22.4	52.9	18.8	5.6
県比較	6.0	▲ 6.6	0.4	0.3
国比較	8.1	▲ 7.6	▲ 0.6	0.3

E 肯定群（「ある」「どちらかといえば、ある」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生・中学生ともにほぼ同等である。

F 将来の夢や目標を持っていますか。

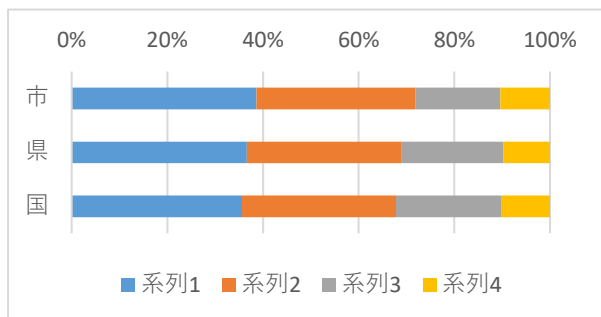
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	62.7	19.4	11.9	6.0
県	59.5	21.8	11.2	7.4
国	60.7	22.4	10.3	6.6
県比較	3.2	▲ 2.4	0.7	▲ 1.4
国比較	2.0	▲ 3.0	1.6	▲ 0.6

【中学生】



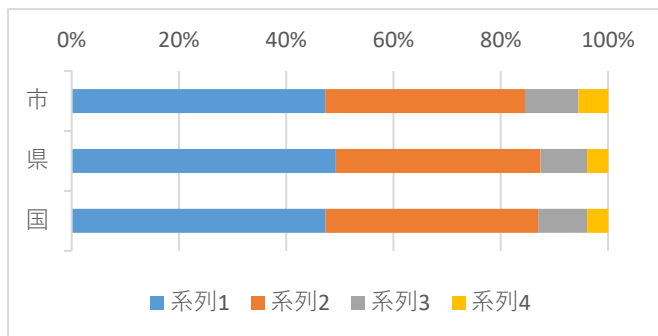
系列	1	2	3	4
市	38.4	33.0	17.7	10.3
県	36.5	32.3	21.2	9.7
国	35.5	32.0	21.9	10.2
県比較	1.9	0.7	▲ 3.5	0.6
国比較	2.9	1.0	▲ 4.2	0.1

F 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では1.0ポイント下回り、中学生では3.9はポイント上回った。ただ、小学生の「そう思う」の割合では、全国を2.0.ポイント上回っている。

G 自分には、よいところがあると思いますか。

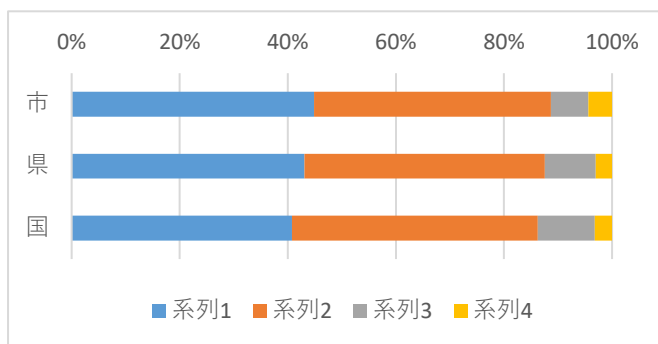
1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	47.3	37.3	10.0	5.5
県	49.2	38.1	8.7	3.9
国	47.3	39.6	9.1	3.9
県比較	▲ 1.9	▲ 0.8	1.3	1.6
国比較	0.0	▲ 2.3	0.9	1.6

【中学生】



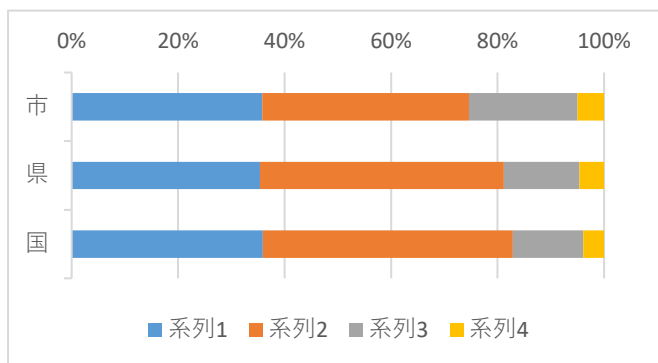
系列	1	2	3	4
市	44.8	43.8	6.9	4.4
県	43.0	44.4	9.4	3.0
国	40.7	45.5	10.5	3.2
県比較	1.8	▲ 0.6	▲ 2.5	1.4
国比較	4.1	▲ 1.7	▲ 3.6	1.2

G 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では、2.3ポイント下回り、中学生では2.4ポイント上回っている。

H 国語の授業の内容はよくわかりますか。

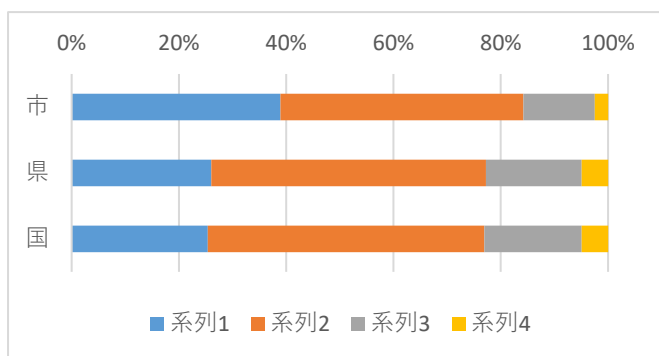
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	35.8	38.8	20.4	5.0
県	35.3	45.7	14.2	4.6
国	35.9	46.9	13.2	3.9
県比較	0.5	▲ 6.9	6.2	0.4
国比較	▲ 0.1	▲ 8.1	7.2	1.1

【中学生】



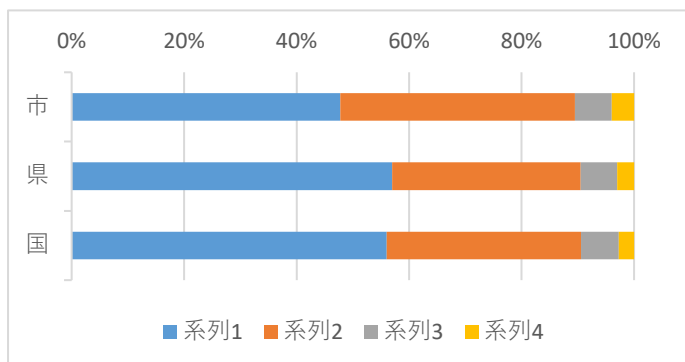
系列	1	2	3	4
市	38.9	45.3	13.3	2.5
県	25.9	51.0	17.8	4.9
国	25.4	51.6	18.2	4.9
県比較	13.0	▲ 5.7	▲ 4.5	▲ 2.4
国比較	13.5	▲ 6.3	▲ 4.9	▲ 2.4

H 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では8.2ポイント下回り、中学生では7.2ポイントと上回っている。

I 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

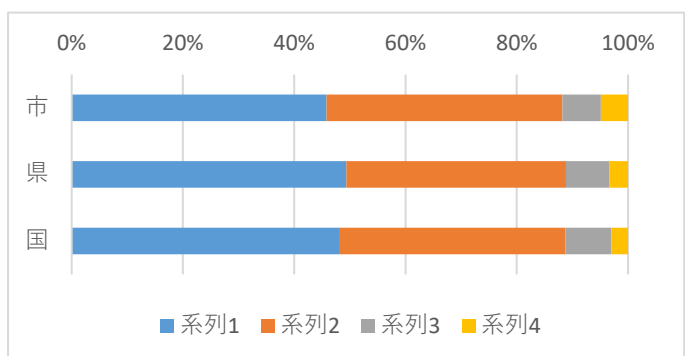
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	47.8	41.8	6.5	4
県	56.9	33.4	6.5	3
国	55.9	34.5	6.7	2.7
県比較	▲ 9.1	8.4	0.0	1.0
国比較	▲ 8.1	7.3	▲ 0.2	1.3

【中学生】



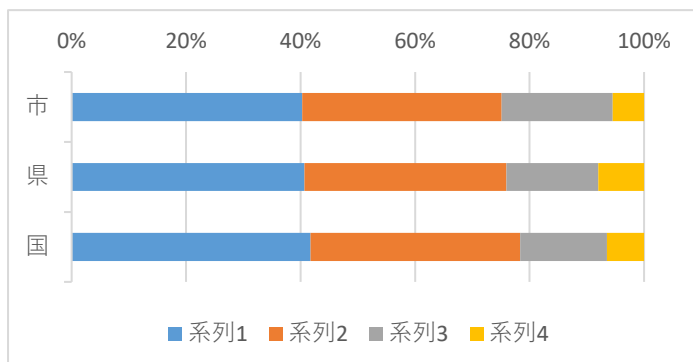
系列	1	2	3	4
市	45.8	42.4	6.9	4.9
県	49.2	39.3	7.8	3.3
国	47.8	40.5	8.2	3.0
県比較	▲ 3.4	3.1	▲ 0.9	1.6
国比較	▲ 2.0	1.9	▲ 1.3	1.9

I 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生・中学生ともにほぼ同等である。

J 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

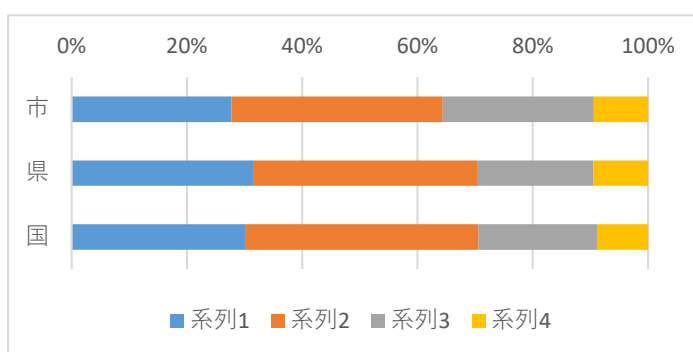
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	40.3	34.8	19.4	5.5
県	40.6	35.3	16.0	8.0
国	41.7	36.6	15.1	6.5
県比較	▲ 0.3	▲ 0.5	3.4	▲ 2.5
国比較	▲ 1.4	▲ 1.8	4.3	▲ 1.0

【中学生】



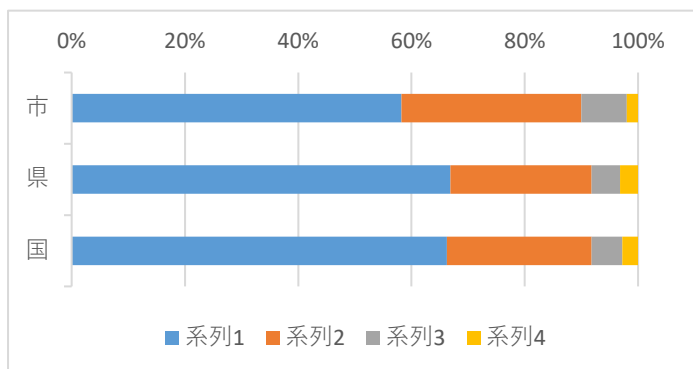
系列	1	2	3	4
市	27.6	36.5	26.1	9.4
県	31.5	38.6	20.1	9.5
国	30.1	40.2	20.5	8.8
県比較	▲ 3.9	▲ 2.1	6.0	▲ 0.1
国比較	▲ 2.5	▲ 3.7	5.6	0.6

J 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では3.2、中学生では6.2ポイント下回っている。

K 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

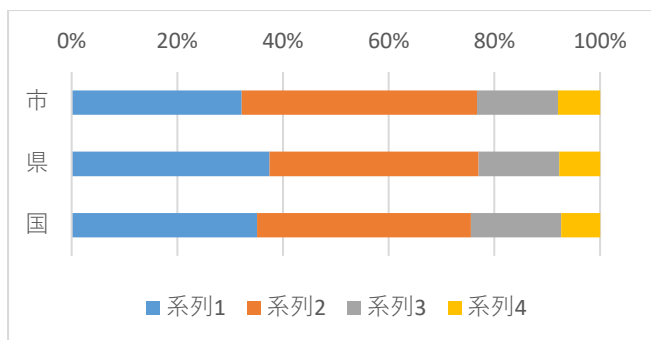
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	58.2	31.8	8.0	2.0
県	66.8	24.9	5.0	3.2
国	66.1	25.5	5.4	2.8
県比較	▲ 8.6	6.9	3.0	▲ 1.2
国比較	▲ 7.9	6.3	2.6	▲ 0.8

【中学生】



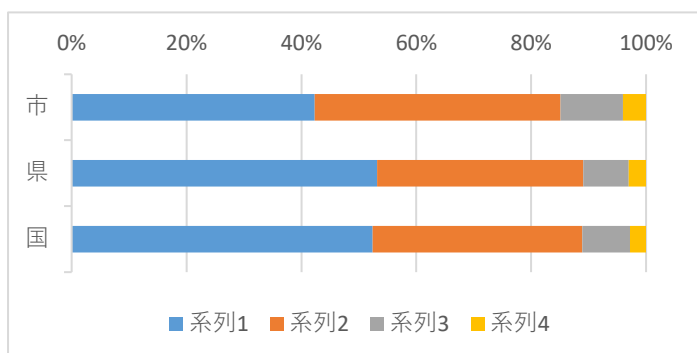
系列	1	2	3	4
市	32.0	44.3	15.3	7.9
県	37.3	39.4	15.2	7.7
国	34.9	40.3	17.0	7.3
県比較	▲ 5.3	4.9	0.1	0.2
国比較	▲ 2.9	4.0	▲ 1.7	0.6

K 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生・中学生ともにほぼ同等である。

L 理科の授業の内容はよく分かりますか。

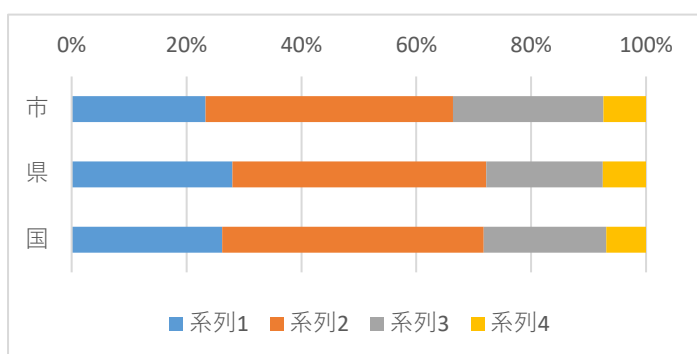
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	42.3	42.8	10.9	4.0
県	53.1	35.9	7.9	3.0
国	52.4	36.5	8.3	2.8
県比較	▲ 10.8	6.9	3.0	1.0
国比較	▲ 10.1	6.3	2.6	1.2

【中学生】



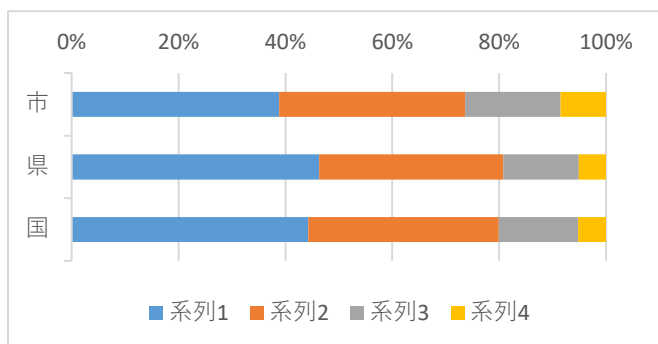
系列	1	2	3	4
市	23.2	42.9	26.1	7.4
県	27.9	44.0	20.2	7.5
国	26.1	45.3	21.2	6.9
県比較	▲ 4.7	▲ 1.1	5.9	▲ 0.1
国比較	▲ 2.9	▲ 2.4	4.9	0.5

L 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では3.8、中学生では、5.3ポイント下回っている。

M 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

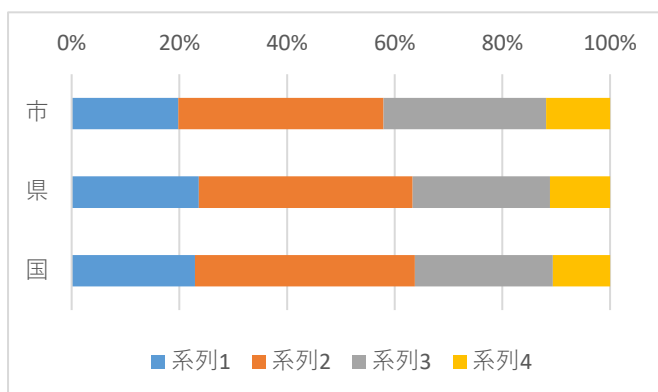
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

【小学生】



系列	1	2	3	4
市	38.8	34.8	17.9	8.5
県	46.2	34.4	14.1	5.1
国	44.3	35.6	14.9	5.2
県比較	▲ 7.4	0.4	3.8	3.4
国比較	▲ 5.5	▲ 0.8	3.0	3.3

【中学生】



系列	1	2	3	4
市	19.7	37.9	30.0	11.8
県	23.5	39.6	25.4	11.1
国	22.8	40.6	25.5	10.6
県比較	▲ 3.8	▲ 1.7	4.6	0.7
国比較	▲ 3.1	▲ 2.7	4.5	1.2

M 肯定群(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計)の割合で備前市と全国を比較すると、小学生では6.3、中学生では、5.8ポイント下回っている。